

社会科教科書における教科特徴動詞の用法

—教科書コーパスと図書館コーパスの比較を通して—

阿保きみ枝 (一橋大学大学院言語社会研究科)

Usages of Characteristic Verbs in Social Studies Textbooks

-Through a Comparison between Textbook Corpus and Library Corpus-

Kimie Abo(Graduate School of Language and Society, Hitotsubashi University)

1. 本調査の目的

本調査の目的は、社会科教科書において特徴的に現れる動詞の用法の特性を探ることである。日本語を母語としない児童・生徒が学校教育での教科内容を理解する際には、教科書内の言語表現が壁となる場合がある。この壁を取り除くためには適切な指導や教材が必要であり、そのためには、まず、教科書の言語使用実態を的確に把握する必要があるだろう。

教科に特徴的な語というと、まずは科目ごとの専門語が挙げられる。一般的に専門語として意識されやすいのは名詞だろう。例えば、文部科学省によるJSLカリキュラムでは、教科ごとの用語対訳一覧を公開しているが、そのほとんどが名詞で、専門的な語義を持つものである。

今回注目したいのは、このような専門語ではないが、ある特定の教科で頻出する語、つまり特徴語である。そのような語の振る舞いを調べることによって、気づかれにくい、教科ごとの言語使用実態の特徴が見えてくるのではないかと考えている。

最終的には、日本語を母語としない児童生徒が教科内容を理解するために必要な語を教科別にまとめ、頻出する用法・用例で提示する教材を作成することを目指している。

2. 調査概要

調査に使用したのは、特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班作成の「教科書コーパス」内の社会科ジャンル（以下「社会科教科書」）と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の図書館・書籍ジャンル（以下「図書館・書籍」）である。

「教科書コーパス」では特に校種を限定せず、小学校から高校までを対象とした。比較対象として図書館・書籍ジャンルを選んだのは、一般的に受容されている書籍を対象としているため言語表現が特定の分野・傾向に偏りにくく、一般的な言語使用を見るのに適していると考えたためである。

「教科書コーパス」の中で社会科のみの特徴語¹となっている動詞を抽出した結果、以下の18語が取り出された。

¹ 教科書コーパスにおける特徴語の選定方法については、田中・近藤（2011）を参照。

表1 社会科特徴動詞

	語彙素	社会科出現度数		語彙素	社会科出現度数
1	通ずる	253	10	強まる	108
2	巡る	239	11	改める	87
3	設ける	196	12	遂げる	82
4	強める	176	13	敗れる	63
5	唱える	168	14	衰える	61
6	広まる	162	15	重んずる	56
7	経る	123	16	押し進める	55
8	栄える	110	17	打ち立てる	18
9	減ぼす	109	18	絡み合う	16

表1を概観すると、「栄える」「減ぼす」などのように社会科教科書での用例が容易に想像できるものから、「絡み合う」のような社会科との関係がわかりにくいものまであることがわかる。これらの動詞は使用度数のみで抽出されたもので、用法に特徴があるかどうかは分からないため、各動詞の具体的な用例を見る必要がある。

用例が50例を超える語についてはランダムに50例を取りだし、用例を観察することとし、本稿では、これら18語の中から特徴的なくつかの動詞について紹介する。

3. 調査結果

3. 1. 事例1「巡る」

『新明解国語辞典』で「巡る」の語義は以下の3つに分類されている。

めぐ・る【巡る】(自五)

一 ぐるりとひと回りして元へもどる。「因果は — / — 年月」

二 〈どこヲ —〉

目指す所を次つぎと訪ねてまわる。「名所旧跡を — 旅/知人の家を巡り歩く」

三 〈なに・だれヲ —〉

そのものを中心として物事が展開する。「彼を — 五人の女性/賛否をめぐって会議が紛糾する/消費税を — 論議」

この語義分類に従って、社会科教科書及び図書館・書籍での「巡る」の用例を語義別に筆者が分類した結果、表2のようになった。

表2 「巡る」の用例分布

	社会科教科書	図書館・書籍
一	1	10
二	2	5
三	47	35
計	50	50

これらの語義の中で、三のみが複合辞的に用いられるものであり、一や二と異なる性質をもっている。よって、語義一と二を統合した上で比較すると、社会科教科書において複合辞的な用法が多いことがわかる ($\chi^2=9.8, p<0.001$)。

具体的に用例を見てみると、図書館・書籍では「そんな思いがめぐってきた。」(語義一)「今日は街を巡って、位置関係を把握しよう。」(語義二)などの例もあるのに対し、社会科教科書は「国境を巡る争いが戦争に発展することも少なくない」(語義三)などに偏っている。

3. 2. 事例2「通じる」

「巡る」と似たふるまいを見せるのが「通じる」である。「通じる」の語義は『新明解国語辞典』には以下のように記述されている。

つうじる 【通じる】²

[一] (自上一)

一 〈(どこ・なにカラ) どこ・なにニ ――〉

何かを伝って一方から他方へ到達出来る状態になる。「山頂へ ―― 道/電話が ―― [a 電話で連絡が取れる。b 電話が架設される] / 電流が ―― [=回路を流れて流れる] / 大便が ―― [=体外へ出る] / 窮すれば ―― [=どうにもしようがない土壇場まで追い込まれると、かえってうまい知恵も出てくるものだ]」

二 〈どこ・なに・だれニ ―― / なに・だれト ――〉

一方から他方に何か伝わり、つながりがつく状態になる。「先方に話が通じていない / 冗談が通じない人 / ここでは英語が通じない / 隣国と ―― [=交流がある] / 敵方に ―― [=内通する] / 人妻と ―― / 気心が通じ合う」

三 〈なにニ ――〉

関係者以外には分からないはずの情報を得ている。「その辺の事情に ―― [=詳しい]」

四 〈なにニ ―― / なにト ――〉

限定された範囲よりもはるかに広い方面にまで関連がある。「現代にも ―― 問題 / 一脈 相アイ ―― ものがあつた [=⇒ 一脈]」

[二] (他上一)

一 〈だれニなにヲ ―― / だれトなにヲ ――〉

つながりをつける。「よしみを ―― [=親しく交わる] / 相手に意志を ―― / 刺シを ―― [=名刺を差し△上げる(上げて面会を申し込む)] / 気脈を ―― [=相手方とひそかに連絡をとる] / 情を ―― [=密通する]」

二 [「…を通じて」の形で] ある状態がその範囲のすべてにわたることを表わす。「一年を通じてあたたかい」

三 [「…を通じて」の形で] 何かを間に立てて仲介とすることを表わす。「あらゆる機会を通じて [=利用して] / ラジオやテレビを通じて [=…により] 知らせる」

² 『新明解国語辞典』では「通ずる」は「通じる」を見出しとして統合されている。

表3 「通ずる」の用例分布

	社会科教科書	図書館・書籍
[一]一	0	5
[一]二	1	7
[一]三	0	2
[一]四	0	7
[二]一	0	0
[二]二	4	8
[二]三	45	21
計	50	50

「巡る」と同様に、[二]二および三が複合辞的用法と考えられるため、これらに当たる用例をまとめ、それ以外と比較すると、やはり社会科教科書において複合辞的用法が非常に多いことが分かる ($\chi^2=9.8$, $p<0.001$)。

上述の2つの動詞は、社会科教科書において特定の用法で使われやすいことが分かるが、この用法の偏りは社会科という教科に特定のものではなく、教科書全体に共通するものである可能性もあるため、今後の調査が必要である。また、この他にも同様の振る舞いを見せる動詞があるかどうかとも課題として残っている。

3. 3. 事例3「唱える」

「唱える」の語義は『新明解国語辞典』では以下の3つに分類されている。

となえる【唱える】

(他下一)

- 一 [決まった文句を] △調子をとって(口の中で繰り返す)言う。「△お題目(念仏)を —— 」
- 二 [短い文句を] 大きな声で叫ぶ。「万歳を —— 」
- 三 [自分の意見・主張を] 大衆に広める目的で発表する。「△異(絶対反対)を —— / 平和を口に —— 」

表4 「唱える」の用例分布

	社会科教科書	図書館・書籍
一	3	24
二	0	0
三	46	25
その他 ³	1	1
計	50	50

³ 「その他」に分類したのは、以下の2例である。

- ・「民主主義といふ文字は、日本語としては極めて新しい用例である。従来は民主々義といふ語を以て普通に唱へられて居ったやうだ。」(社会科教科書)
- ・「何時から、誰が禅宗などと唱えたとも伝えられてはいないのだ。」『正法眼蔵』

3. 4. 事例4「強まる」

「強まる」は多義語ではないため語義による違いはないが、主格名詞にどのような分布があるか調べた。下の表5および6に共起頻度が2以上の名詞をまとめた。

表5 「社会科教科書」で「強まる」と共起する主格名詞（頻度2以上）

	社会科教科書
結び付き	11
動き	7
統制	3
傾向	2
度合い	2
批判	2
発言力	2

表6 「図書館・書籍」で「強まる」と共起する主格名詞（頻度2以上）

	図書館・書籍
傾向	2
勢力	2
風	2

上記のように、社会科教科書では「結び付き」および「動き」が「強まる」とよく共起していることがわかる。図書館・書籍ではこのように特定の語に偏ることはないため、社会科教科書の特徴である可能性がある。このような共起語の偏りが何に起因するものか、社会科教科書のみ傾向かどうかなどは今後の課題だが、このような偏りがあることは、児童・生徒に対する日本語教育上、留意すべき特徴であるだろう。

4. まとめ

今回は、社会科教科書の動詞という非常に限定された条件で調査を行っているが、上述のように①複合助詞的用法への偏り②意味の偏り③共起語の偏り、という3点の特徴を観察できた。

もちろん、他の品詞や他の教科、小学校・中学校・高校の区別についても調査が必要であるが、日本語を母語としない児童・生徒に何を優先して教えるべきかを考察する際には、このような可能性を考慮に入れるべきだと考える。

例えば、学習者用の教材を作成する際には、それぞれの語の特徴を満たした例文で提示する、特徴的な用法や意味から教えるなど、児童・生徒が教科内容を理解しやすくなるように、日本語教育側からの配慮・工夫の余地はまだ残っているだろう。

文 献

田中牧郎・近藤明日子 (2011) 「教科書コーパス語彙表」『特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班報告書 言語政策に役立つ, コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』, pp.55-64. (http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/doc/report/JC-P-10-01.pdf よりダウンロード可能)

関連 URL

文部科学省「帰国・外国人児童生徒教育等に関する施策概要」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001.htm